

# わが家の防災メモ

## わが家の避難場所・集合場所

種類	名称	住所	電話番号
避難場所①			
避難場所②			
避難場所③			
集合場所			

## いざという時の連絡先

### ● 家族・親戚・知人などの連絡先

名前	電話番号	住所	メモ
	自宅・職場・学校		
	自宅・職場・学校		
	自宅・職場・学校		
	自宅・職場・学校		
	自宅・職場・学校		

### ● 非常時の連絡先

名称	電話番号	名称	電話番号
小浜市役所	53-1111 (代)	小浜海上保安署	緊急 118 52-0494
若狭消防署	緊急 119 53-5211		
小浜警察署	緊急 110 56-0110 (代)		

## 「災害用伝言サービス」を利用した安否確認方法

災害時に被災地への電話がつながりにくい場合でも、家族・親戚・知人などの伝言を確認できるシステムです。

### 伝言を録音する場合

171 をダイヤル

暗証番号を利用する録音は③

1 をダイヤル

自宅または携帯の電話番号をダイヤル

メッセージを話す(30秒以内)

### 伝言を再生する場合

171 をダイヤル

暗証番号を利用する再生は④

2 をダイヤル

連絡を取りたい方の電話番号をダイヤル

メッセージを聞く

小浜市



津波に備えて、命を守る。

# 津波 ハザードマップ

## 津波ハザードマップについて

この津波ハザードマップに表示している基準水位は、福井県が津波防災地域づくりに関する法律に基づき令和5年2月に公表したものです。

- 国が示した日本海側の津波断層モデルおよび計算手法を使用
- 最大クラスの津波が悪条件下(朔望平均満潮位や護岸の破壊など)において発生した場合を想定

※朔望平均満潮位とは朔(新月)または望(満月)の前2日、後4日以内に観測された最高満潮位の平均値です。今回の想定では、過去10年間で平均した朔望平均満潮位を地震発生時の潮位としています。

上記の津波シミュレーションで得られた計算結果から想定される津波のせき上げを算出し基準水位を求めています。

### H24福井県独自浸水想定ライン

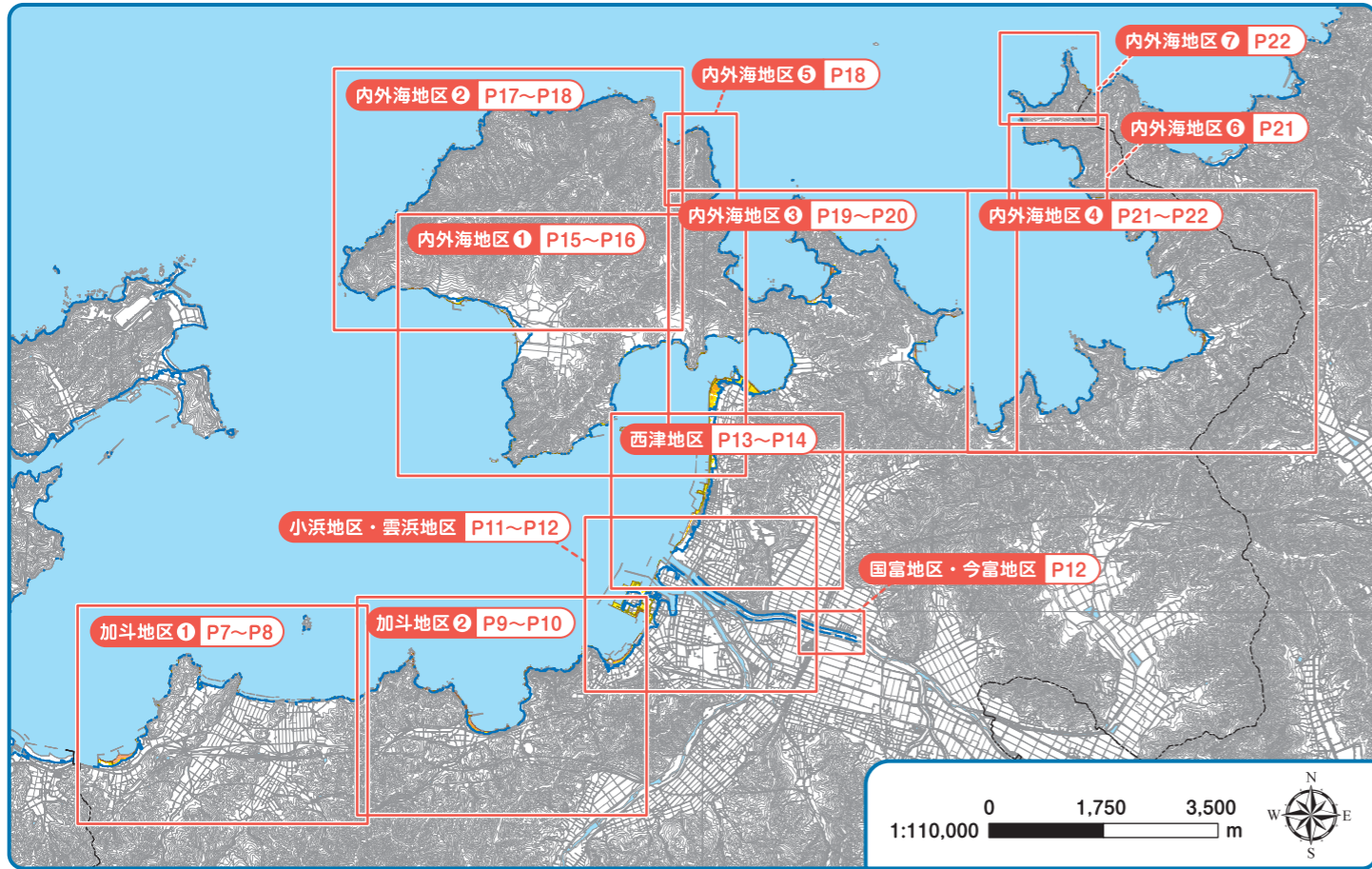
日本海西部に発生する津波について、国による断層調査が実施されていなかったことから、国が調査結果を示すまでの措置として、平成24年に福井県が独自で条件設定を行い、シミュレーションしたものです。参考情報として掲載しています。



地震の規模や震源の位置などにより、津波災害警戒区域外への浸水や実際の浸水が想定される基準水位より深くなる場合があります。揺れを感じたら、まずは身を守ったのち、ただちに高台などの安全な場所に避難してください。

### 索引図

各地区図面の掲載ページです。地区の状況を確認してください。



### このマップの使い方

#### 01. 家の位置を確認しましょう



あなたの家の位置を確認し、その周りでの程度の被害が想定されているかを確認しましょう。

#### 02. 避難する場所を確認しましょう



最寄りの避難場所のほか、第2候補、第3候補も決めておきましょう。

#### 03. 安全な避難経路を決めましょう



避難場所までの安全な避難経路を考えましょう。

#### 04. 実際に避難場所まで歩いてみましょう



避難場所まで安全に避難ができるかを確かめましょう。地図上では分からない危険が潜んでいるかもしれません。

#### 05. 家族で話し合しましょう



災害時の行動について家族と話し合しましょう。避難する場所や家族が離れた場所で被災した場合の集合場所を決めておきましょう。

#### 06. 学校や近所の方と話し合しましょう



皆さんが住んでいる地域や学校などの防災訓練に積極的に参加し、学校や近所の方と防災について話し合うことも大切です。

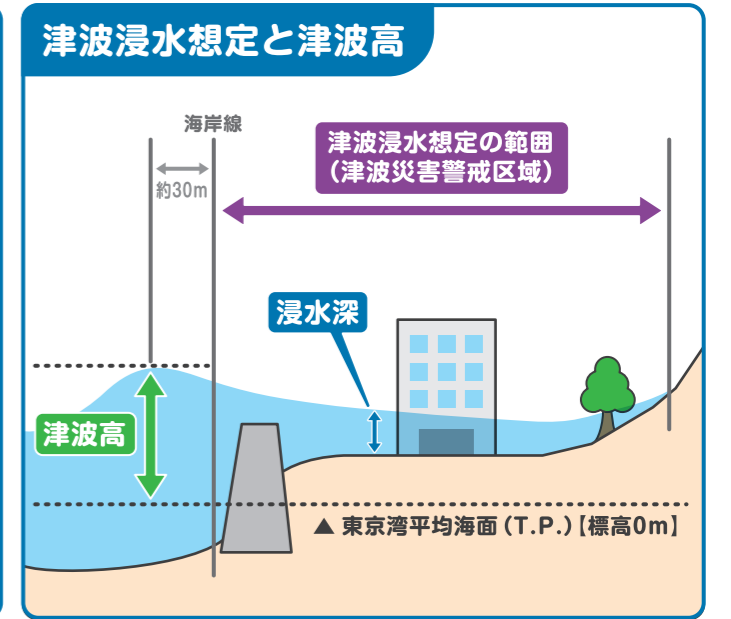
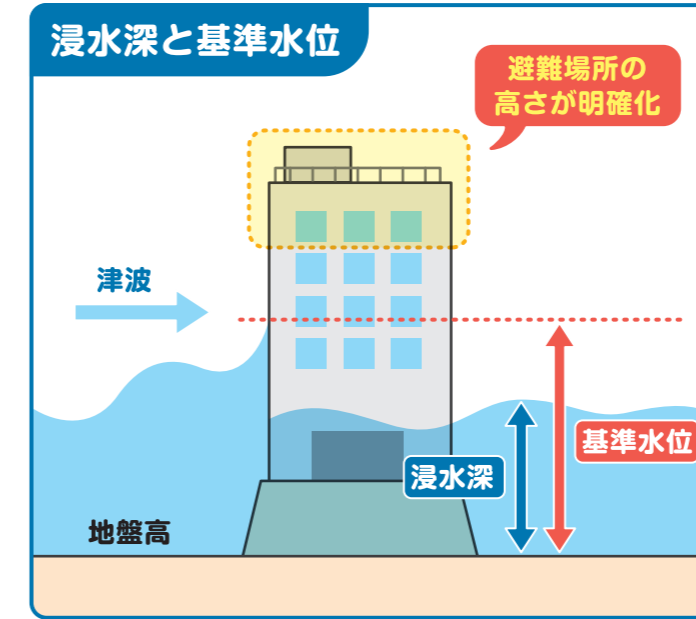
### 津波浸水想定に関わる用語解説

**浸水深**とは、津波により浸水が想定された場所の地面から水面までの高さです。

**基準水位**とは、浸水深に津波が建物などに衝突した際のせき上げ高を加えた水位です。小浜市津波ハザードマップでは「基準水位」を掲載しています。

**津波災害警戒区域**とは、最大クラスの津波が発生した場合、人的被害が生じるおそれがある区域であり、津波浸水想定と同様です。

**津波高**とは、海岸線から約30m沖合の地点における津波を東京湾平均海面(T.P.)から測った高さのことです。



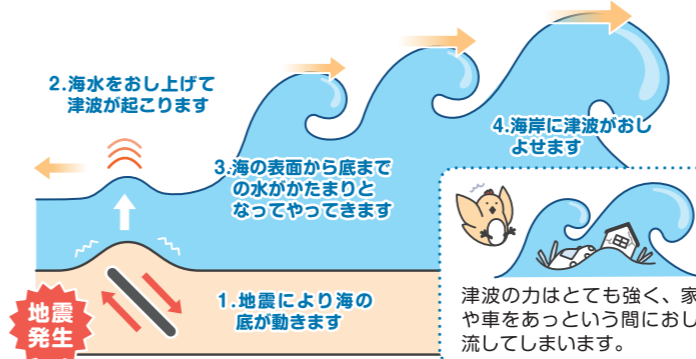
### 津波を知る

### 津波発生仕組み

海底で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播するものが津波です。

「津波の前には必ず潮が引く」という言い伝えがありますが、必ずしもそうではありません。地震が発生させた地下の断層の傾きや方向、また、津波が発生した場所と海岸との位置関係によっては、潮が引くことなく最初に大きな波が海岸に押し寄せる場合もあります。

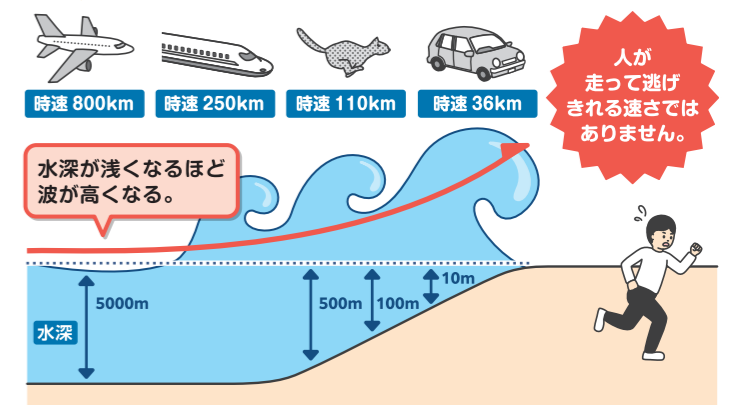
津波は引き波で始まるとは限らないのです。



### 津波の伝わる速さと高さ

津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合いません。海岸付近で地震の揺れを感じたら、または、津波警報が発表されたら、実際に津波が見えなくても、速やかに避難しましょう。

津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。

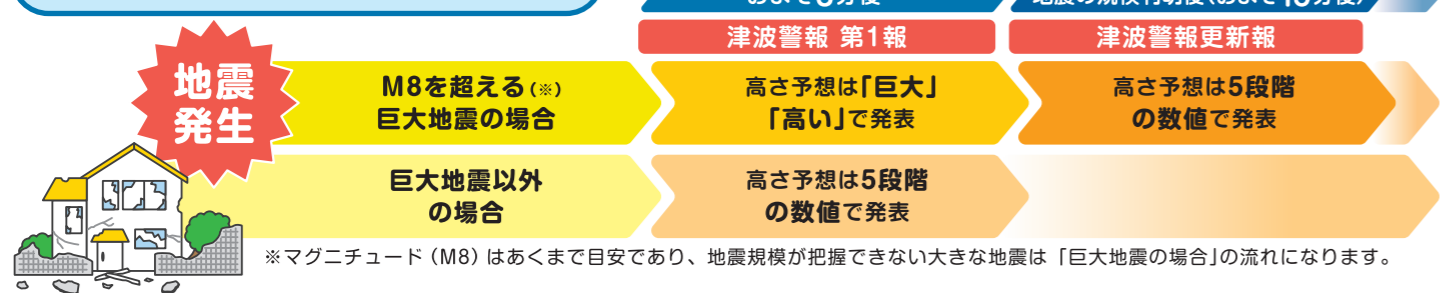


津波警報・注意報の種類と取るべき行動

予想される津波の高さは、通常は5段階の数値で発表されます。ただし、マグニチュード8を超えるような巨大地震の場合は、地震の規模を正確に把握するまでに時間がかかるため、第1報では予想される津波の高さを、大津波警報のときは「巨大」、津波警報のときは「高い」という簡潔な言葉で発表されます。

	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
	数値での発表 (津波の高さ予想の区分)	巨大地震の場合の 表現	
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	巨大な津波が襲い、木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
	10m (5m<高さ≤10m)		
	5m (3m<高さ≤5m)		
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波注意報	1m (0.2m≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。 海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

津波警報の情報発表の流れ



地震発生時の行動

緊急地震速報!! 地震だ! まず身の安全確保!

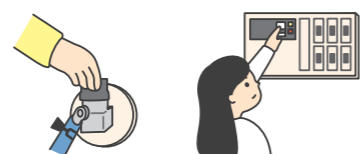
家の中にいるときは

1. まずは自分の身を守る



地震が発生した際の安全確保行動は、「姿勢を低く!」「体・頭を守って!」「揺れがおさまるまで動かない!」

2. 火元の確認



揺れがおさまり安全になってから火の元を確認し、元栓を閉めましょう。また、電気のブレーカーを切りましょう。

3. 出火した場合



出火した際は、周りの人に大きな声で助けを求め、消火器などで初期消火を行います。危険を感じたら避難してください。

屋外にいるときは

瓦や外壁、看板、割れた窓ガラスの落下やブロック塀の倒壊、自動販売機の転倒、切れた電線などに注意しましょう。



車を運転しているときは

できるだけ安全に車を道路の左側に寄せ止め、車を置いて避難する場合は、エンジンを止め、ドアをロックせず、キーを置いたまま避難しましょう。



海の近くで強い揺れや弱くても長い揺れを感じたら、まずは身を守ったのち、ただちに高台などの安全な場所に避難しましょう。



小さな揺れでも油断禁物!

たとえ小さな地震でも、津波が発生する危険性があります。



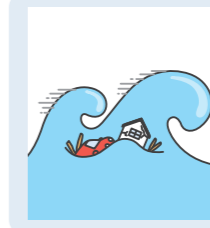
引き波がなくても注意!

津波の前に引き波が必ずあるとは限りません。



満潮の時は要注意!

水位が高くなっているため、津波が高くなり、被害が大きくなるのが想定されています。



津波のスピードは速い!

「注意報」や「警報」が発表される前に津波が到達することもあります。ただちに避難しましょう。



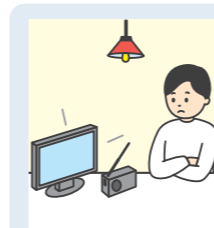
より高い場所へ避難する

海岸から「より遠い」場所ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。



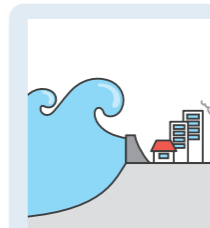
避難はなるべく徒歩で

車での避難は、渋滞に巻き込まれ避難が困難になり、被害を大きくすることもあります。



正しい情報を聞く

テレビ・ラジオ・防災行政無線などで、正しい情報を聞きましょう。



津波は繰り返し来る!

津波は繰り返し襲ってきます。「注意報」や「警報」が解除されるまで、安全な場所から離れないようにしましょう。



海岸・河川に近づかない!

海岸に近づかないことはもちろん、津波は河川をさかのぼる可能性があるため、できるだけ河川に近づかず避難しましょう。



地域での助け合いが大切!

避難時は、要配慮者の手助けを行うなど、地域で協力した避難を心がけましょう。

要配慮者について

要配慮者とは、年齢や障がい、言葉の違いなどによって災害発生時の対応に特に配慮が必要な方のことです。一般に高齢者や障がい者、乳幼児や妊産婦、日本語を十分理解できない外国人などが該当します。地域で協力し合いながら、近所の要配慮者の安否確認、避難場所への移動を支援しましょう。

肢体の不自由な人には...

- ▶ 2人で抱える場合は、1人が背中側から両脇に手を入れて抱きかかえ、もう1人が両脚を持って移動しましょう。



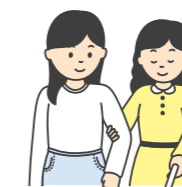
耳が不自由な人には...

- ▶ 口をハッキリと開け、相手に分かりやすいように話しましょう。
- ▶ 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝えましょう。



目の不自由な人には...

- ▶ 災害時には、声をかけ情報を伝えましょう。
- ▶ 誘導する場合は、支援者のひじ辺りを軽く持ってもらい半歩前をゆっくり歩きましょう。



外国人には...

- ▶ 身振りや手振りで話しかけ、孤立しないようにしましょう。



各種情報源と収集できる情報

災害時に必要な情報が、どこから、どのような方法で入手できるか確認しておきましょう。

● **プッシュ型：住民の皆さんに情報が届きます**

**防災行政無線** 聞く

屋外スピーカーや各家庭の戸別受信機から、災害時の避難情報などの緊急情報をお知らせします。戸別受信機は正しく設置し、停電時でも放送が聞こえるよう乾電池を入れておきましょう。

**防災アプリ** 受信する

**Yahoo! 防災速報** ※事前に登録が必要  
緊急地震速報や豪雨予報、避難情報などをお知らせするアプリです。小浜市内の避難情報も確認することができます。詳しい機能は下記URLで見ることが出来ます。  
<https://emg.yahoo.co.jp/> アプリのダウンロードはこちら

● **プル型：住民の皆さんが、自ら情報を集めます**

**テレビ** 電源を入れる

ニュース番組や各局のデータ放送（リモコンのdボタンを押す）、L字放送などにより情報を確認することができます。

**ホームページ** 検索する

**小浜市公式ホームページ**  
災害時には、避難情報、避難所開設状況などの情報を随時掲載します。防災行政無線やチャンネルO(オー)の放送と同じ内容が確認できます。  
<https://www1.city.obama.fukui.jp/>

**福井県河川・砂防総合情報**  
河川の水位に関する情報などが入手できます。

**小浜市で作成したハザードマップ**

小浜市では、地域の災害に対する危険度を知っていただくとともに、災害に対する日ごろの備えや、災害時の避難に必要な情報などを掲載した、各種ハザードマップを作成し、公表しています。

**洪水ハザードマップ**

**各種ハザードマップ**

**メール** 受信する

**小浜市防災メール** ※事前に登録が必要  
防災情報や緊急情報などを「小浜市防災メール」という名称で、ご使用の携帯電話などに配信しています。  
<https://mail.cous.jp/bousaiobama/> 小浜市防災メール 検索

**緊急速報メール** ※登録不要  
緊急地震速報や災害・避難情報など緊急性の高い情報を、地域内にある携帯電話（NTTドコモ、au(KDDI)、ソフトバンク、楽天モバイル）に一斉配信するサービスです。事前登録は不要ですが、機種によって、事前に受信設定が必要な場合があります。

**ラジオ** 電源を入れる

災害時にはラジオでも防災情報を入手できます。平時から聴くことが可能なラジオ放送局を確認しておきましょう。

**気象庁ホームページ（津波）**  
津波警報・注意報、津波情報、津波予報が確認できます。  
[気象庁津波 検索](#)

**福井地方気象台ホームページ**  
福井県で発表中の注意報・警報、キキクル（洪水・浸水害・土砂災害の危険度分布）、気象情報や天気予報などの情報が確認できます。  
[福井地方気象台 検索](#)

**小浜市ハザードマップで検索！**  
小浜市ハザードマップ 検索  
小浜市津波ハザードマップのホームページから、お手持ちのパソコンやスマートフォンで専用ファイルをダウンロードなどすることで、津波ハザードマップを立体画像で見ることができます。ぜひお試しください。

非常持出品

避難先で必要なものは自宅から持ち出すのが基本です。下記のリストを参考に動きやすい量だけ準備し、リュックサックなどに入れて、すぐに持ち出せる場所に保管しましょう。

**非常食**

- 飲料水  食料品（レトルト食品、缶詰、ビスケット、チョコなど）

**防災用品**

- ヘルメット、防災ずきんなど
- 懐中電灯、ヘッドライト
- 携帯ラジオ
- 予備の乾電池
- 携帯電話の充電器、モバイルバッテリーなど

**衣類など**

- 衣類、下着、靴下
- 雨具
- 防寒用ジャケット
- 厚手の手袋、軍手
- マスク
- 内履き（スリッパなど）

**生活用品**

- 洗面用具
- タオル
- 毛布
- 予備の眼鏡、コンタクトレンズ用品など
- 消毒液
- ウェットティッシュ
- 携帯トイレ
- 使い捨てカイロ
- 筆記用具
- ビニール袋
- レジャーシート

備蓄品

災害の発生直後は、公的な支援物資がすぐに届かなかったり、物流が滞って必要なものが買えないことが想定されます。生活を継続するために、最低3日分、できれば1週間分（家族の人数分）の備蓄品を確保しておきましょう。

**食料など**

- 飲料水（1人1日3リットル目安）
- 非常食（アルファ化米、レトルト食品、インスタント食品、缶詰など）

**生活用品**

- トイレットペーパー
- ティッシュペーパー
- ウェットティッシュ
- ビニール袋
- ラップ
- 紙皿、紙コップ、割り箸
- ライター、マッチ、ろうそく
- カセットコンロ、ガスボンベ
- 給水用ポリタンク、水（生活用水）
- 懐中電灯、ヘッドライト、ランタン
- ラジオ
- 乾電池
- 簡易トイレ、携帯トイレ

- 非常持出品・備蓄品は、家族構成など（例：乳幼児、妊産婦、要介護者）に合わせて必要なものも準備してください。
- 備蓄した食料を古いものから普段の食事で利用し、食べた分を買い足す「ローリングストック法」を取り入れて、無理なく備蓄することをおすすめします。

防災訓練に参加しましょう

小浜市や地域の自主防災組織などが行う防災訓練には積極的に参加し、避難経路や避難場所を日ごろから確認しておきましょう。



**救急医療品**

- 常備薬、持病の薬
- 救急セット
- 体温計
- お薬手帳

**貴重品**

- 現金（小銭を含む）
- 預貯金通帳
- 印鑑
- 健康保険証
- 身分証明書（免許証など）

